

「機関リポジトリの次の一手を考える」シリーズ勉強会第7回 発表資料

Plan Sが学術情報流通に与えた  
影響についての調査報告書

“Galvanising the Open Access Community:  
A Study on the Impact of Plan S”

2025/2/3

東京大学 安達修介

# 調査報告書の概要

- 2024年10月15日、研究助成機関のコンソーシアムcOAlition Sが、OA推進するイニシアチブPlan Sが学術コミュニケーションに与えた影響に関する調査報告書を公表
- Plan Sの影響について、定量的評価と定性的評価を実施

de Castro, Pablo; Herb, Ulrich; Rothfritz, Laura; Schmal, W. Benedikt; Schöpfel, Joachim. Galvanising the Open Access Community: A Study on the Impact of Plan S. Zenodo, 2024.

<https://doi.org/10.5281/zenodo.13738479>

Plan Sとは

# そもそもPlan Sとは？

- cOAlition Sによって2018年9月に発表されたイニシアチブ
- cOAlition S参加機関の助成を受けて出版された論文の完全かつ即時OAの達成を目標とし、その目標を達成するための10原則を掲げた
- OAのルートとして、ゴールドOA、グリーンOA、ハイブリッドOA（ただし論文著者の所属機関が転換契約を結んでいる場合のみ）を挙げている

# Plan S発表に至るまで

- Finchレポート (2012)  
→グリーンOAからゴールドOAへの転換の契機に
- OA2020イニシアチブ (2015)  
→購読モデルからOAモデルへの転換を目指す
- オープンサイエンスに関するアムステルダム行動要請 (2016)
- ベルリンオープンアクセス会議・SCOAP<sup>3</sup>の影響  
⋮
- Plan S発表 (2018)

# Plan S発表後

- 2018年9月 Plan S発表
- 2018年11月 実施ガイドライン発表
- 2019年5月 実施ガイドライン改訂版発表
- 2021年1月 Plan S発効
- ⋮
- 2024年10月 調査報告書の発表

# Plan Sの原則

“With effect from 2021, all scholarly publications on the results from research funded by public or private grants provided by national, regional and international research councils and funding bodies, must be published in Open Access Journals, on Open Access Platforms, or made immediately available through Open Access Repositories without embargo.”

「2021年の発効以降、国の／地域の／国際的な研究評議会あるいは助成団体による公的／私的研究助成の成果である学術出版は全て、エンバーゴなしでオープンアクセスジャーナル、オープンアクセスプラットフォームで出版されるか、オープンアクセスリポジトリを通じて公開されなければならない。」

“Principles and Implementation”. Plan S.

<https://www.coalition-s.org/addendum-to-the-coalition-s-guidance-on-the-implementation-of-plan-s/principles-and-implementation/>

# Plan Sの10原則

- ① 著者、もしくはその所属機関は出版物の著作権を保持する。全ての出版物はベルリン宣言で定義された要件を満たすため、オープンライセンス、できればCC BYで公開されなければならない。
- ② 研究助成機関は高品質のOAジャーナル、OAプラットフォーム、およびOAリポジトリが提供するサービスのための堅牢な基準と要件を定める。
- ③ 高品質のOAジャーナルやプラットフォームがまだ存在しない場合、研究助成機関は必要に応じて、連携してそれらの設立と支援を奨励する。また、必要に応じてOAインフラストラクチャの支援も行う。
- ④ 適用ができる場合には、OA出版の費用は、個々の研究者ではなく研究助成機関あるいは研究機関が負担する。全ての研究者がOAで自分の研究を発表できるべきである。
- ⑤ 研究助成機関は、OAジャーナルおよびプラットフォームのビジネスモデルの多様性を支援する。OAの出版費用が課される場合、それらは提供される出版サービスに見合った額でなければならず、価格体系は市場に情報を提供し、支払いの標準化および上限設定を促進するために透明になっていなければならない。

# Plan Sの10原則（続き）

- ⑥ とりわけ透明性を担保するために、研究助成機関は、政府、大学、研究機関、図書館、学会、および学術団体が戦略、ポリシー、および慣行を整合させることを奨励する。
- ⑦ 上記の原則は全種類の学術出版物に適用されるが、モノグラフおよび図書のチャプターのOAを達成するためのタイムラインは長くなり、別途適切なプロセスが必要である。
- ⑧ 研究助成機関は「ハイブリッド」モデルの出版を支援しない。ただし、明確に定義された期間内でのフルOAへの移行段階としての転換契約の一環としてのみ、研究助成機関は財政的に支援することがある。
- ⑨ 研究助成機関はコンプライアンスを監視し、準拠していない受益者／助成対象者に制裁を課す。
- ⑩ 研究助成機関は、助成決定時に研究成果を評価する際、出版経路、インパクトファクター（あるいは他の指標）、または出版社を考慮せず、研究の内在的な価値を評価する。

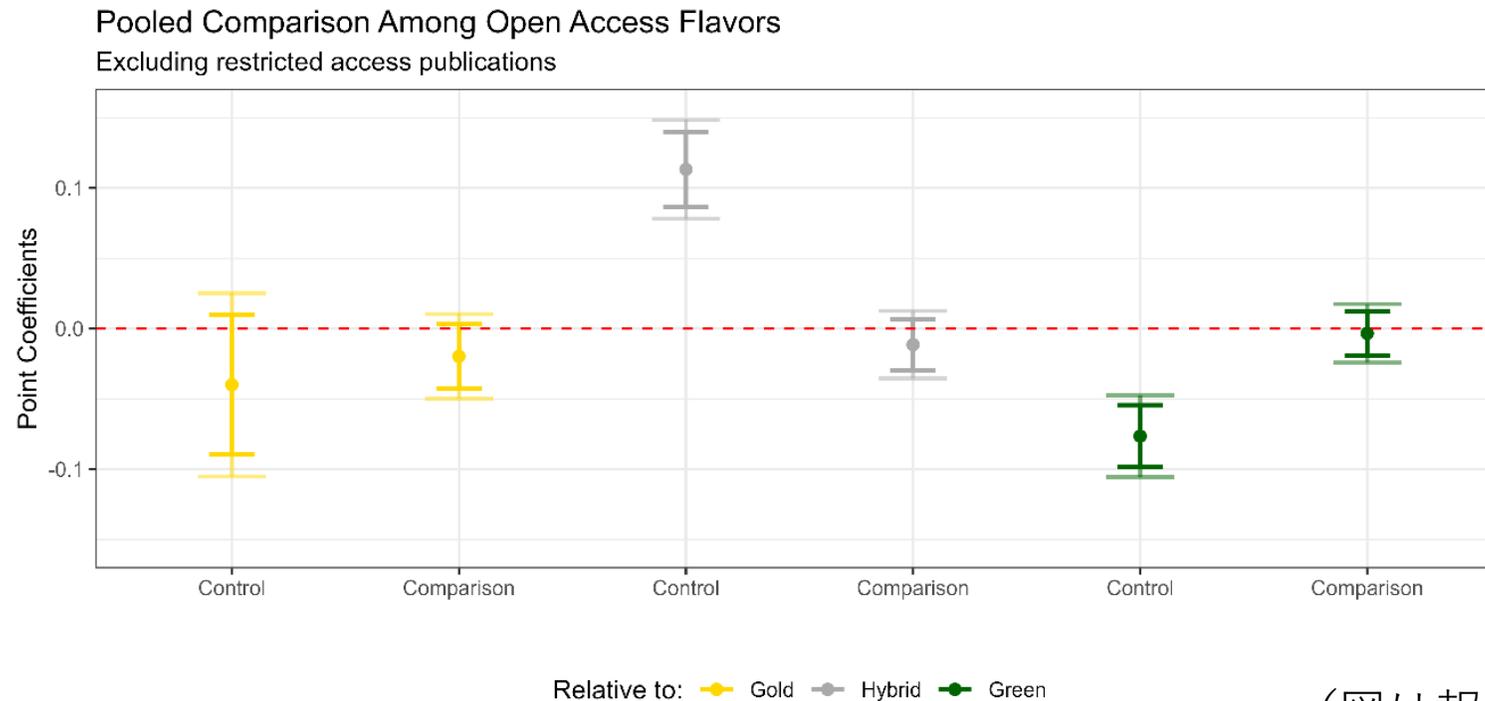
# 定量的評估

# 評価の手法

- 「もしもPlan Sが存在しなかったら、学術コミュニケーションの変化はどうなっていたか？」と、反事実を念頭に置いて評価
- cOAlition S参加の研究助成機関を「処置群 (Treatment group)」と置き、Plan Sに整合していないOAポリシーを持つ助成機関を「対照群 (Control group)」、cOAlition Sには参加していないもののPlan Sに整合するOAポリシーを持つ助成機関を「比較群 (Comparison group)」と置いて比較
- 評価の際にはOpenAlex、Crossref、Unpaywallなどのオープンデータが用いられた

# 評価の結果

- 処置群の機関の助成を受けた成果物は、対照群・比較群の機関と比較して、**統計的に有意なOA率の上昇は示していなかった**



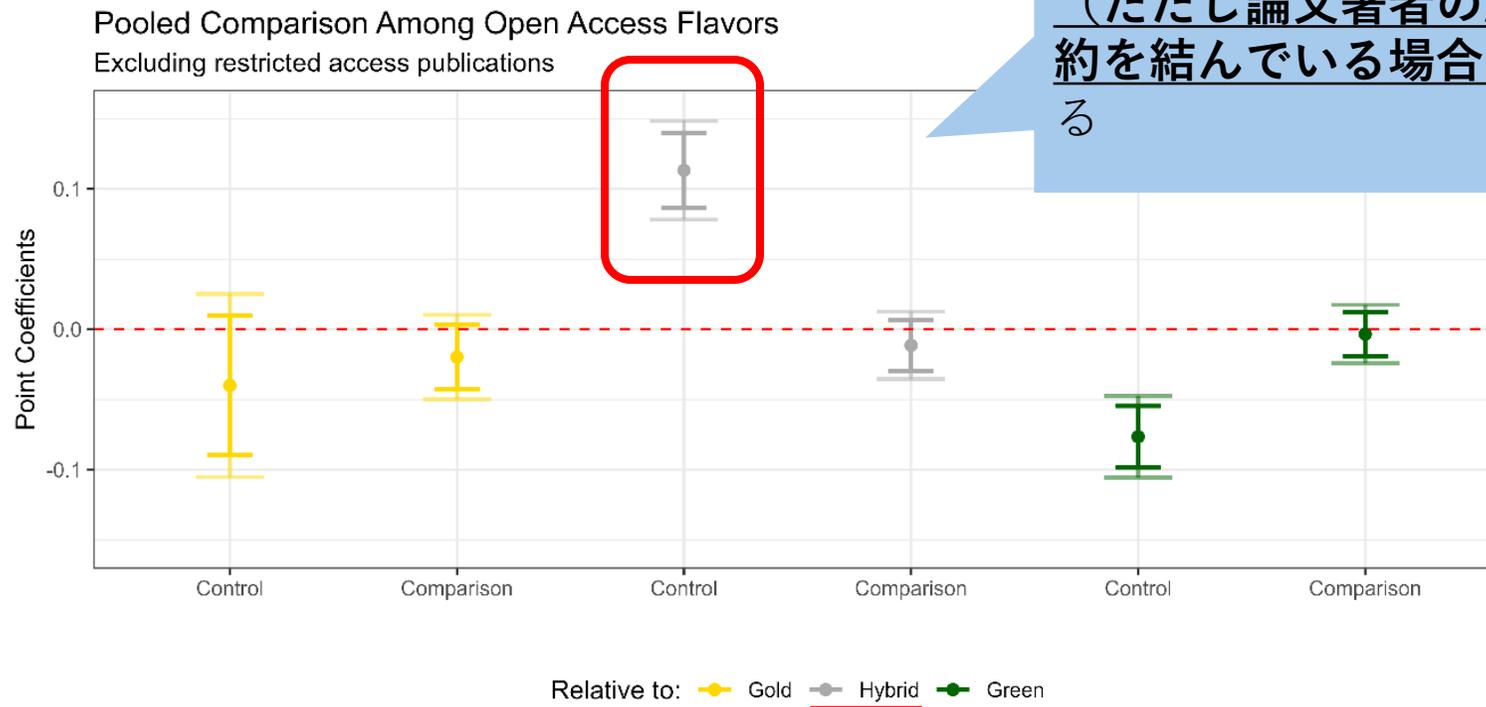
(図は報告書P.38から)

# 評価結果の分析

- Plan Sに整合したOAポリシーは2021年初頭から採用され始めたため、その影響を定量的に評価するには早すぎるのではないか
- 処置群の機関は比較期間の開始時点でOA率が既に高い状態だったので、成長率があまり高くならなかった可能性がある

# ハイブリッドOAの進展

- 特に処置群と対照群との間でハイブリッドOAの成長率に大きな差がある  
→ 転換契約の影響？



Plan SはOAのルートとして、ゴールドOA、グリーンOA、ハイブリッドOA (ただし論文著者の所属機関が転換契約を結んでいる場合のみ) を挙げている

# 定性的評價

# 定量的評価を補足

- Plan Sを定量的に評価するには早すぎたという判断で、補足的に定性的評価も実施
- 6種類の評価方法
  - ① Plan Sに関する文献のレビュー
  - ② 既存の統計・調査の収集
  - ③ OA専門家へのインタビュー
  - ④ 研究助成機関との（非公式な）対話
  - ⑤ OA関連イベントへの参加
  - ⑥ 調査結果の早期報告に基づく検討会

# 評価の結果

- “A concise assessment of the impact of Plan S from the findings of this qualitative analysis is provided in the title of the report:”  
「定性的分析の結果から得られたPlan Sによる影響の簡潔な評価は、報告書のタイトルに書かれている」（EXECUTIVE SUMMARYより）



## **“Galvanising the Open Access Community”**

「オープンアクセスコミュニティを活性化する」

# 3つのOAルートについて検証

- 転換契約（ハイブリッドOA）  
→ 大きな成果／出版社との交渉材料になった  
世界中で進行中のため、Plan Sが補助する必要はない？
- 権利保持戦略（グリーンOA）  
→ 好評だがまだまだ発展途上
- 完全なゴールドOA  
→ APCによるOA出版モデルは発展したが、持続可能性に難あり  
（原稿単位で料金が課されるモデルの不公平さを認識させた）  
ダイヤモンドOAは注目されているが、研究者に受容されていない

# OAルート以外も多岐にわたる言及

- 周辺分野（プレプリント・図書出版）の状況
- グローバルサウスとの不均衡  
（Plan Sが強調したので出版社も対応しようとしている）
- 研究者のための「控え目な」提案  
（研究者にもっと出版コストを認識させては？）
- 各OAモデルと出版社の今後の動向の分析

# Plan Sの成功点と課題

# Plan Sの成功点

- 即時OAを実現するために複数の戦略を採用し、OA促進のための引き金を引いたこと
- 地域を超えた問題、特にグローバルサウスでの問題への対応が効果的だったこと
- 出版社との交渉に際して見せた歩み寄りの姿勢も効果的であったこと

グローバルサウスの反発

「**転換契約によって「誰が取り残されるのか」が全く考えられていない。途上国がAPCで研究成果を発表する非現実性。**」

「**機関リポジトリの次の一手を考える**」  
シリーズ勉強会第3回より

# Plan Sの課題

- **研究者にほとんど認知されていない!**
- 抽象的すぎるために国レベルの行動に落とし込めていない
- OAに関する3つの課題（アクセシビリティ、価格、公平性）を同時に解決しようとして、リソースを分散させてしまった
- cOAlition Sに加わっていない地域（極東アジア、東南アジア、ラテンアメリカ、カリブ海地域等）から支持を得られなかった

評価を踏まえた推奨事項

# cOAlition Sへの推奨事項

- ① **cOAlition Sを2025年以降も継続**する。
- ② 研究評価改革に向けた取り組みを支援する。
- ③ **革新的で公平なオープンアクセス出版モデル**を支援する。
- ④ 2024年12月31日以前と2025年1月1日以降のPlan Sをつなぐストーリーを構築する。
- ⑤ cOAlition Sの地理的領域の拡大の実現可能性について調査する。
- ⑥ 国や地域のコンソーシアムと密接に連携する。
- ⑦ cOAlition Sのコミュニケーション関連の取り組みを強化する。
- ⑧ オープンアクセスモニタと協力する。
- ⑨ **権利保持ポリシーに関する国際協力を促進**する。
- ⑩ プロジェクトの報告要件に「責任ある出版」というセクションを導入する。
- ⑪ Plan Sのインパクトに関する調査を5年または10年後に実施する。

「革新的で公平なOA出版モデル」 =  
ダイヤモンドOA、オープンリサーチ  
プラットフォーム

※翻訳は西岡（2024）より

## 推奨事項5では日本にも言及

At a time when countries like Japan are devising their strategy to implement a mandatory national Open Access policy, having the necessary international coordination mechanisms in place would be highly advisable despite the non-negligible increase in organisational complexity.

「日本のような国々が国の義務的なOA政策を実施するための戦略を策定している時に、必要な国際調整のメカニズムを整備することは、組織の複雑性は無視できないほど増すが、非常に望ましいことである」

# ステークホルダーへの推奨事項

- ⑫ 図書館による出版物予算の再配分に関するベストプラクティスを特定して普及させる。
- ⑬ 研究者の代表者等を巻き込んだより分散されたオープンアクセス支援ネットワークを機関で推進する。
- ⑭ 転換契約の価値を高めるメカニズムを考案する。
- ⑮ 学術コミュニケーション分野における新しい公的所有または公的支援事業の所有権を確保するためのメカニズムを考案し、実装する。

# Plan Sの枠組みを維持することを推奨

- cOAlition Sに向けた推奨事項
  - cOAlition Sとしての取り組みを継続していくこと
  - 改革や影響範囲拡大を推進していくこと
- ステークホルダーに向けた推奨事項
  - 研究機関同士の連携を強化すること
  - 転換契約の価値を高めるための仕組みと権利保持の仕組みを検討すること



「機関リポジトリの次の一手」は？

# 参考文献

- “cOAlition S announces the release of an independent study on the impact of Plan S”. Plan S. 2024-10-15.  
<https://www.coalition-s.org/coalition-s-announces-the-release-of-an-independent-study-on-the-impact-of-plan-s/>
- de Castro, Pablo; Herb, Ulrich; Rothfritz, Laura; Schmal, W. Benedikt; Schöpfel, Joachim. Galvanising the Open Access Community: A Study on the Impact of Plan S. Zenodo, 2024, 99p.  
<https://doi.org/10.5281/zenodo.13738479>
- cOAlition S、発表から5年が経過したPlan Sが学術コミュニケーションに与える影響に関する調査報告書を公開. カレントアウェアネス-R. 2024-10-27.  
<https://current.ndl.go.jp/car/228352>
- 西岡千文. オープンアクセス推進におけるPlan Sのインパクト. 情報の科学と技術. 2024, 74(12), p. 535-537.  
[https://doi.org/10.18919/jkg.74.12\\_535](https://doi.org/10.18919/jkg.74.12_535)

よろしければこちらも……

Plan Sが学術情報流通に与えた影響についての調査報告書 (<https://current.ndl.go.jp/e2764>)

- “Principles and Implementation”. Plan S.  
<https://www.coalition-s.org/addendum-to-the-coalition-s-guidance-on-the-implementation-of-plan-s/principles-and-implementation/>
- 林豊. Plan S：原則と運用. 情報の科学と技術. 2019, 69(2), p. 89-93.  
[https://doi.org/10.18919/jkg.69.2\\_89](https://doi.org/10.18919/jkg.69.2_89)
- 船守美穂. プランS改訂—日本への影響と対応. 情報の科学と技術. 2019, 69(8), p. 390-396.  
[https://doi.org/10.18919/jkg.69.8\\_390](https://doi.org/10.18919/jkg.69.8_390)
- 尾城孝一. 学術雑誌の転換契約をめぐる動向. カレントアウェアネス. 2020, (344), CA1977, p. 10-15.  
<https://current.ndl.go.jp/ca1977>
- 船守美穂. プランS改訂版発表後の展開—転換契約等と出版社との契約への影響. カレントアウェアネス. 2020, (346), CA1990, p. 17-24.  
<https://current.ndl.go.jp/ca1990>
- 船守美穂. 動向レビュー：即時オープンアクセスを巡る動向：グリーンOAを通じた即時OAと権利保持戦略を中心に. カレントアウェアネス. 2023, (358), CA2055, p. 15-23.  
<https://current.ndl.go.jp/ca2055>
- 「第3回 SPARC Japan セミナー2016 科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて：オープンサイエンス再考」. SPARC Japan. (最終閲覧2025-01-22)  
<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20170214.html>
- 坂本拓. 2nd Global Summit on Diamond Open Access in Cape Town参加報告  
<https://doi.org/10.34477/0002000543>